

2010.6.30 (水)

徳島新聞

「病魔」と闘う 子どもに勇気

仮面ライダー紙芝居

悪に立ち向かう仮面ライダーのように、子どもたちも病氣と闘ってほしい。鳴門教育大学付属特別支援学校高等部3年の三谷広君(18)が徳島市中常三島町1-11が徳島大病院の依頼を受け、シナリオを書いた紙芝居「仮面ライダー お遍路危うしヤミヨロイの恐怖」が完成した。石森プロと東映が監修、アニメ制作会社が仕上げた本格的な作品。徳大病院で7月1日、入院する子どもたちに披露する。

三谷君(鳴門教育大学付属特別支援学校高等部)シナリオ

紙芝居は縦30センチ、横42センチで23枚。病氣の妹を気遣う主人公の男の子が、病院に現れ患者を苦しめる怪人「ヤミヨロイ」を仮面ライダーと協力して倒すストーリー。徳島が舞台で仮面ライダーはお遍路さんから変化した。病氣の子どもが元気に、明るくなるようにとの思いを込めて、1カ月かけて原稿用紙60枚のシナリオを書き上げた。「恐ろしい敵にも正面から立ち向かえば、必ず打ち勝てる。それを知ってほしかった」と作品の狙いを語る。

三谷君はこれまでに紙芝居のシナリオを3本書いた経験があり、子どもたちを勇気づける紙芝居の作者を探していた徳大病院の森川教授が白羽の矢を立てた。病氣の子どもが元気に、明るくなるようにとの思いを込めて、1カ月かけて原稿用紙60枚のシナリオを書き上げた。「恐ろしい敵にも正面から立ち向かえば、必ず打ち勝てる。それを知ってほしかった」と作品の狙いを語る。



アニメ制作会社 仕上げ

森川教授は「多くの人の協力で出来上がった作品。紙芝居を通して、病氣に負けない強い心を育ててほしい」と期待。紙芝居は徳大児童文化研究部の学生が上演する。

完成した紙芝居を手にする三谷君
徳島市内の新聞放送会館